

令和5年度 西東京市立柳沢中学校 関係者評価表

学校の教育目標						
・広い視野をもち、勉学に励む人間「問題発見・解決能力」 ・思いやりのある人間「人間関係形成力」 ・心身ともに健康な人間「豊かな人生を実現させる力」						
【目指す学校像】 (1)生徒「一人一人が主役」となれる活動が溢れる学校 (2)生徒が安心して学べる「生命尊重教育を基礎とした」信頼溢れる学校 (3)「Team Yagisawa with smiles」チームとして笑顔が溢れる学校						
【目指す児童・生徒像】 (1)自己実現に向け、自ら考え進んでやり抜く心と体を持つ生徒 (2)自他を尊重し、正しい判断に基づき責任を重んじ協力する生徒 (3)伝統と文化を尊重し、自然と郷土を愛し、広く社会に貢献しようとする生徒						
【目指す教師像】 (1)生徒の心情に共感し理解し励まし支援する教師「生徒理解の深化」 (2)分りやすい授業を実践し、生徒の学ぶ意欲を引き出す教師「授業力」 (3)生徒の豊かな感性と良さを引き出し、自己実現を支援する教師「理想の実現」						
	具体的方策	学校自己評価		学校の取組及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	基礎・基本の定着やわかりやすい授業づくりに向けて、「柳沢中スタンダード8つの取組」と「ユニバーサルデザインの視点による授業の取組」を活用して授業改善に努めている。	4	4	「柳沢中スタンダード8つの取組」と「ユニバーサルデザインの視点による授業の取組」を活用したことで、どの生徒にもわかりやすい授業展開を意識し、工夫を取り入れて授業改善に努めた。全教員で実践例を共有し今後も推進する。	A	全教員で授業の改善に努めることができるのは評価できる。「柳沢中スタンダード8つの取組」「ユニバーサルデザインの取組」について高く評価したい。今後も改善に努めてほしい。生徒も教師も共有したことで、目標が明確になった。授業に「完成」「到達」はない。その時々で「わかりやすい授業」「達成感を実感できる授業」に向けた努力を続けていただきたい。
	各教科の授業において、目標に基づいて適正な評価・評定の実施に努めている。	4	4	授業開きにおいて年間学習計画、単元及び教材ごとの学習目標、評価規準、毎時間の本時の学習目標を明示し、学習者の目標達成に向けての意欲向上に努めた。今後も振り返りカードなどを活用し、個人内評価に取り組みるようにし、学習意欲の向上につなげる。	A	今後も継続し、目標達成に向けて意欲向上に努めてほしい。学習目標を明示し、目標達成に向けて向上に努めたことは評価できる。教員の評価と生徒自身の評価がどの程度マッチしているのかが分かる資料を見たい。
	GIGAスクール構想の具現化を図り、ICT機器を活用した授業改善・教育活動の質の向上を図るとともに、海洋教育パイオニアスクールプログラム校としてワクワドキドキするような教育活動に取り組んでいる。	3	4	海洋教育パイオニアスクールプログラム校最終年。今年度もイカの解剖を能登里海研究所とオンラインで結んで授業を行った。WiFi環境の整備に課題があるが、今後は、他方面でのワクワドキドキするような教育活動につなげていく。	A	イカの解剖はオンラインで結んでの授業のよい取組となった。海洋教育は最終年を迎えたが、今後も教育活動に向けて取り組んでほしい。現状のICT環境の中で様々な工夫により構想の具現化を図っていただいているが、今後も環境の改善に合わせて先生方も更にスキルを高め活用を図っていただきたい。
豊かな心の育成	時間、挨拶、言葉遣い、決まりを守るなどの生活目標の達成に向けて「あじみこし」を定着させ、基本的な生活習慣の確立に努めている。	4	4	全体的に基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多い。生活委員が作成したあじみこしポスターを活用した啓発運動なども行っているが率先しての挨拶はまだ弱く、登校時間に余裕がない生徒も一部いる。今後も挨拶が飛び交い、より活気ある学校づくりを推進する。	A	1学期はまだ、マスクをしている生徒も多く、挨拶も弱いかなと感じたが、夏以降はマスクなしですれ違う時に笑顔で挨拶をしてくれる生徒も増えてきたように思う。街中で会った時に挨拶する生徒もいて元気ももらっている。時間、挨拶、言葉遣い、決まり・・・どれも生徒のみが「守られる」「やられる」ものではない。教員も、「私をお手本にしない」と言える言動で「範」を示しながら指導を続けていただきたい。生徒からの挨拶がないのが残念である。一部においては登校に遅れがちな生徒がいるものの、全体的には向上していると評価できる。
	一人ひとりを大切に教育を推進し、深い生徒理解、情報共有の徹底や関係諸機関との連携など早期発見、早期対応、未然防止に努めている。	4	4	教育支援委員会、教育相談、不登校対策委員会を特別チームとして編成し、より強度な組織づくりを行った。深い生徒理解と情報共有の徹底、教育相談アンケート、二者及び三者面談など継続して行い、全校体制で早期発見・対応、未然防止に努める。	A	特別チームをつくったり、よく対応している。今後も努めていただきたい。しっかりとした組織を生かしながら一人一人の生徒と直接関わる（語る）機会を増やし、より深い生徒理解に努めていただきたい。
	保護者や地域の理解及び協力を得ながら、地域貢献活動の推進をし、心の育成を図っている。	4	3	今年度、新規にボランティア推進委員会を立ち上げ、花壇、あいさつ、地域清掃を中心に活動を実施した。地域協力者や園芸店との打ち合わせや年間計画を見直し、来年度の年間行事予定表に盛り込んでさらに意図的・計画的に実施する。	A	取組の成果は、一朝一夕に現れるものではない。これからも改善を加えながら、継続して取り組んでいったきたい。5をつけた。まだ、始まったばかりで生徒が集まらないことがあってもボランティアをしている生徒が楽しく活動できているから価値し活動が定着すると思う。地域の大人にも声をかけてほしい。共に活動する楽しさや達成感を味わってほしい。自主的な活動ながら、生徒は良く取り組んでいると思われる。環境問題を取り組み、学校の周りが「花いっぱい」で活動に継続に努めてほしい。
個に応じた指導	部活動や行事などで達成感の得られる活動や向上心を高めさせる活動や持久走などの継続的な取組による生徒の心身の向上に努めている。	4	4	コロナウイルスが5類となり、以前の活動に戻つつある中、修学旅行やスキー教室も以前と同様に実施できた。また運動会や合唱コンクールなど全校生徒で実施し、1人1人の係活動や学級における集団目標の達成に向けた体験から達成感を感じる生徒が多く、今後も継続する。	A	今後も継続に努めてほしい。帰属感、自己有用感、仲間と共に成長できる喜び等が互いの声かけの形となってくるような仕向け方はどうか。クラスづくり、班づくり、部活動のチームづくりの中で育てる意識をもって取り組んでほしい。行事を見ることができていないが、おおむね目標は達成できたとの認識である。運動会、合唱コンクールなどよく取り組んだ。
	校内の安全、安心、安定な生活環境を整えた安全教育の実施と危機管理体制を確立している。	4	4	毎朝の検温では、地域の方の協力も得てコロナウイルスやインフルエンザ等感染症拡大防止に努めた。また感染対策を講じながらもコロナ禍前と同様の避難訓練を実施し、東京都安全教育推進校としても安全危機管理体制の確立を推進した。	A	避難訓練や安全教育が実施できたことは良かった。地域の方の協力は私が関わっている学校の中で一番強力だと思う。教員数が少ない中、非常に助かっている。管理職の姿勢の賜だと思っている。教室内通路の確保（大きなカバンが置かれている）など、物理的な悪条件もあるかと思うが、「ちょっとしたキケン」をみながら無くしていく態度が身につくと更に良い。今後も継続に努めていただきたい。
地域との連携	活力ある生徒、自他の生命を大切に心を持つ生徒の育成をするため、学校行事や生徒会活動での取組を工夫する。	4	4	感染対策を講じながら、二大行事の全校実施、宿泊を伴う行事や校外学習等感染防止に努めたことで、生徒の満足感につながった。道徳授業地区公開講座では生命の大切さをテーマに設定し、深く考えさせ、他者と交流して学び合う活動を盛り込んだ。また地域懇談会の参加者を増やすことができた。今後も活性化を図る。	A	概ね達成されていると認識している。今後も継続に努めていただきたい。全ての校外学習（修学旅行や都内めぐり、スキー教室、職場体験、地域めぐり）を実施できたことは良かった。
	授業公開、学校だより、学年・学級だよりやホームページをリアルタイムで発信し、教育活動の積極的な公開に努めている。	4	4	授業公開の実施、学校だよりや学年、学級、保健だより生活指導通信と進路だよりを加えて発信し、教育活動の発信に努めた。学校メールによる補足、昨年度からのホームページ掲載の工夫やリアルタイムでの更新に努め、積極的に教育活動の公開を継続して行い、本校の教育活動の理解に努める。	A	学校だより、学年だより、HPともに新鮮な情報がスピーディーに伝わってきている。写真などの視覚情報も豊富で楽しく見られる。HPではよく学校の取組をアップしている。教育活動の発信、Yagichu Nowの更新はありがたい。様子分かりやすいがどれだけ保護者が見てくれているのか・・・。ぜひとも良く見られているHPを見てほしいと感じる。
	学習支援や外部人材など地域の教育力を活用した学習補助及び放課後学習教室を推進し、学校と地域が連携して地域の子供たちの育成に努める。	4	4	昨年度に継続して武蔵野大学福祉ボランティア団体、地域大学の学生、インターンシップ制度などを活用した授業中の学習支援を推進した。また、地域の方による英語検定教室や放課後学習教室の開催や放課後カフェによる居場所づくりなど継続して地域と連携して地域の子供たちの育成に努める。	A	今後も継続に努めていただきたい。放課後カフェでは、準備付けや自らスタッフを誘いともに楽しむなど、大人にとっても楽しさ気づいに働ける機会を共有できていると感じ始めている。福長も継続できれば、互いにより良いものになると信じている。地域との関係は大変深く良く取り組んでいる。外部人材の活用にも積極的に取り組んでいる様子も伝わってきている。地域の一員として今後も更に協力できるような努力したい。放課後学習教室は生徒から「もっと時間が欲しい」をの声がある。こういった声があることが逆に良いことだと思う。

A：自己評価は適切である。 B：自己評価は適切ではない。 C：評価のための資料が不足している。 D：評価は不可能である。